

② AEDの使用手順

- 心肺蘇生を行っている際に、AEDが届いたらすぐにAEDを使う準備を始めます。
- AEDにはいくつかの種類がありますが、どの機種も同じような手順で使えるように設計されています。AEDは、電源を入れると、音声メッセージであなたが行うべきことを指示してくれます。また、行うべきことが文字や画像で表示される機種もあります。落ち着いてそれに従ってください。
- AEDを使う準備をしながらも心肺蘇生をできるだけ続けてください。

7 AEDの使用

(1) AEDの準備と装着

① AEDを傷病者の頭の近くに置く (図29)。

② AEDの電源を入れる。

- ・ AED本体のふたを開け、電源ボタンを押します (ふたを開けると自動的に電源が入る機種もあります。) (図30)。
- ・ 電源を入れたら、それ以降は音声メッセージ等の指示に従って操作します。

③ 電極パッドを貼る。

- ・ 傷病者の胸をはだけます。
- ・ AEDのケースに入っている電極パッドを袋から取り出します。電極パッドを保護シートからはがし、電極パッドや袋に描かれているイラストに従って粘着面を傷病者の胸の肌 directly 貼付けます (図31・32)。
- ・ 機種によっては、電極パッドのケーブルの差込み (プラグ) を直接AED本体の差込み口 (点滅している) に挿入するものがあります。

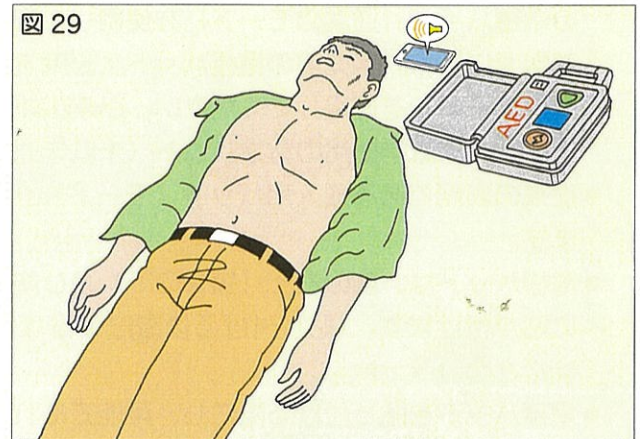


図 29 AEDを置く場所

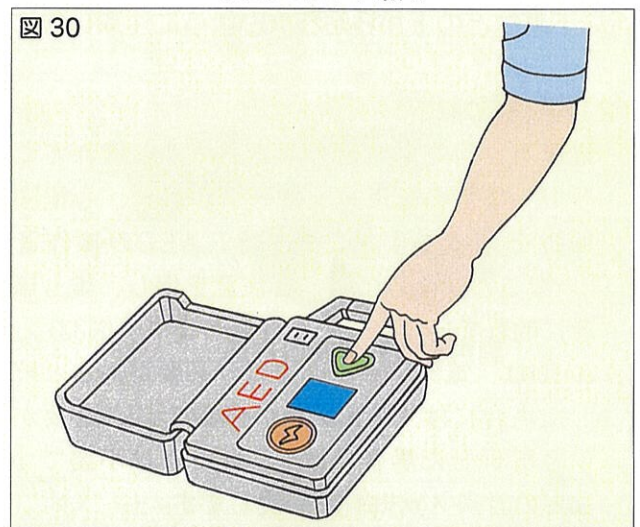


図 30 AEDの電源を入れる

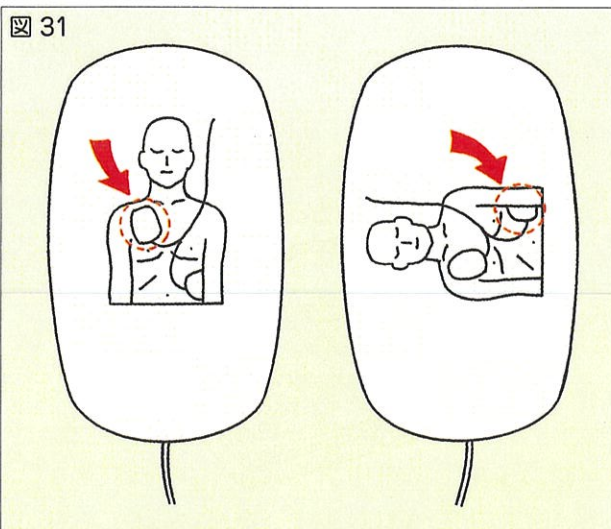


図 31 2枚に分かれている電極パッド

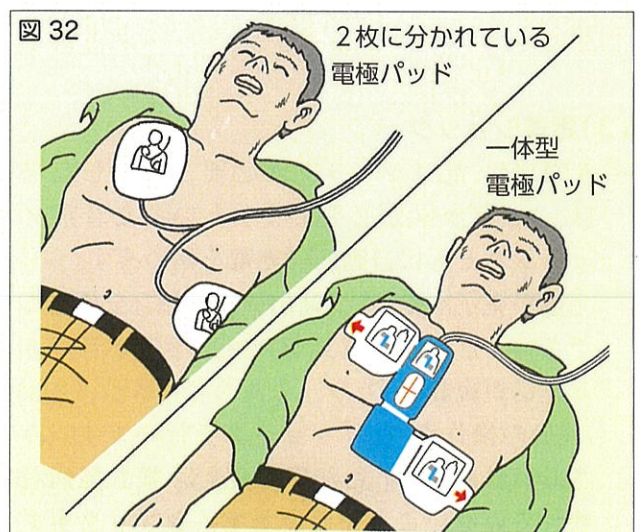


図 32 2枚に分かれている電極パッド
一体型電極パッド
電極パッドを貼り付ける位置

ポイント

- AEDに小学生～大人用（従来の「成人用」）と未就学児用（従来の「小児用」）の2種類の電極パッドが入っている機種や、本体に未就学児用モードに切り替えるスイッチが付いている機種があります。その場合には、小学生以上（小学生を含む）には小学生～大人用の電極パッド（通常モード）を使用し、未就学児には未就学児用の電極パッド（未就学児用モード）を使用してください。小学生以上には、未就学児用の電極パッド（未就学児用モード）は使用しないでください。
- 従来の表記である成人用パッド（モード）、小児用パッド（モード）のままのAEDもあるので注意します。
- 電極パッドは、胸の右上（鎖骨の下）及び胸の左下側（脇の下の5～8cm下、乳頭の斜め下）の位置に貼り付けます。（貼り付ける位置は電極パッドにイラストで表示されていますので、それに従ってください。）
- 電極パッドを貼り付ける際にも、可能であれば胸骨圧迫を継続してください。
- 電極パッドは、肌との間にすき間を作らないよう、しっかり密着させ貼り付けます。アクセサリや下着などの上から貼らないように注意します。

傷病者の区分	小学生以上	未就学児
電極パッドで使い分ける機種（※）	小学生～大人用電極パッド	未就学児用電極パッド
本体のスイッチで切り替える機種	通常モード	未就学児用モード

※AEDに未就学児用の電極パッドが入っていない場合には、入っている電極パッドを使用します。

(2) 心電図の解析

- 電極パッドを貼り付けると“体から離れてください”などの音声メッセージが流れ、心電図の解析を始めます。このとき、AEDの操作者は「みなさん、離れて!!」と注意を促し、誰も傷病者に触れていないことを確認します（図33）。
- AEDは、電気ショックを行う必要があると解析した場合には“ショックが必要です”、必要がないと解析した場合には“ショックは不要です”などの音声メッセージを流します。
- “ショックは不要です”といった音声メッセージの場合は、救助者は直ちに胸骨圧迫を再開します。

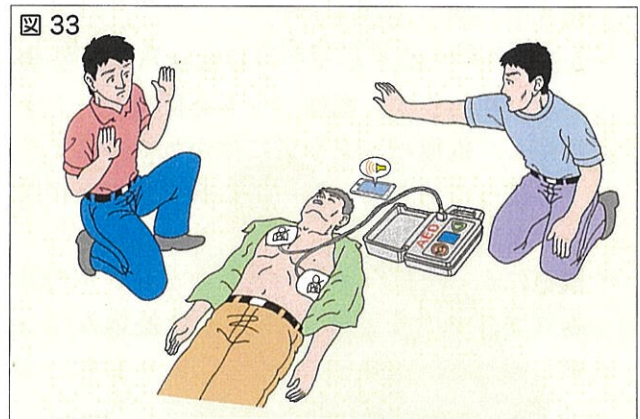


図 33 傷病者に誰も触れていないことを確認

(3) 電気ショック

- AEDが、電気ショックが必要と解析した場合は、“ショックが必要です”といった音声メッセージとともに自動的に充電を始めます。
- 充電が完了すると、“ショックボタンを押してください”といった電気ショックを促す音声メッセージが流れます。
- AEDの操作者は、「ショックを行います。みなさん、離れて!!」と注意を促し、誰も傷病者に触れていないことを確認して、ショックボタンを押します（図34）。

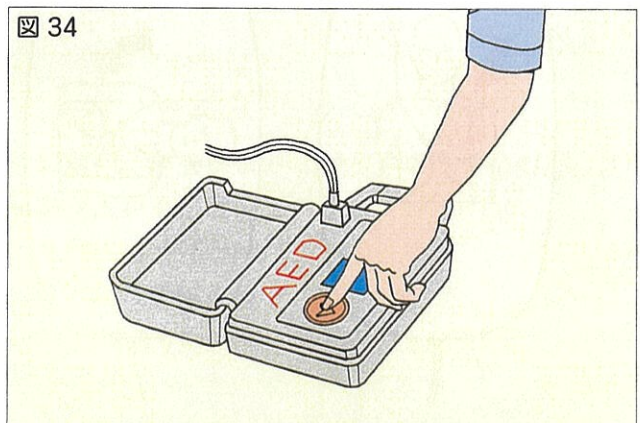


図 34 ショックボタンを押す

ポイント

- AEDの操作者は、ショックボタンを押す際は、必ず自分も傷病者から離れ、誰も傷病者に触れていないことを確認します。
- 電気ショックによって、傷病者に強い電気が流れ、体が一瞬ビクッと突っ張ります。
- 電気ショックが必要と解析した場合に、ショックボタンを押さなくても自動的に電気ショックが行われる機種（オートショックAED）もあります（図35）。オートショックAEDでは、傷病者から離れるように音声メッセージが流れ、カウントダウンまたはブザーの後に自動的に電気が流れます。この場合も音声メッセージ等に従って傷病者から離れます。

図 35



(画像提供：JEITA 電子情報技術産業協会)

オートショック AED に表示されているロゴマーク

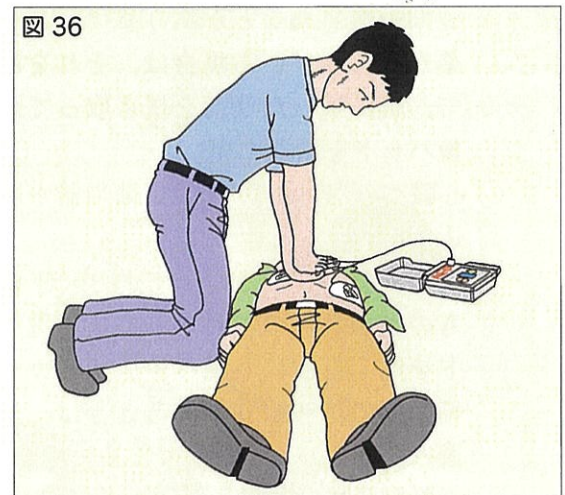
(4) 心肺蘇生の再開

- 電気ショックを行ったら、直ちに胸骨圧迫を再開します（図36）。

ポイント

- AEDを使用する場合でも、AEDによる心電図の解析や電気ショックなど、やむを得ない場合を除いて、胸骨圧迫の中断をできるだけ短くすることが大切です。

図 36



直ちに胸骨圧迫を再開

8 AEDの使用と心肺蘇生の継続

- AEDは2分おきに自動的に心電図解析を行います。音声メッセージに従って傷病者から手を離し、周りの人も傷病者から離れます。
- 以後は、心肺蘇生とAEDの使用の手順を救急隊員と交代するまで繰り返します。

参考

○心肺蘇生を中止するときは

① 救急隊員と交代したとき

救急隊が見えたらすぐに救命処置をやめるのではなく、心肺蘇生を中断することなく、救急隊員に交代するまで継続します。その後、救急隊員からの質問に答えます。

② 傷病者に普段どおりの呼吸が戻って呼びかけに反応したり目的のあるしぐさが認められたとき

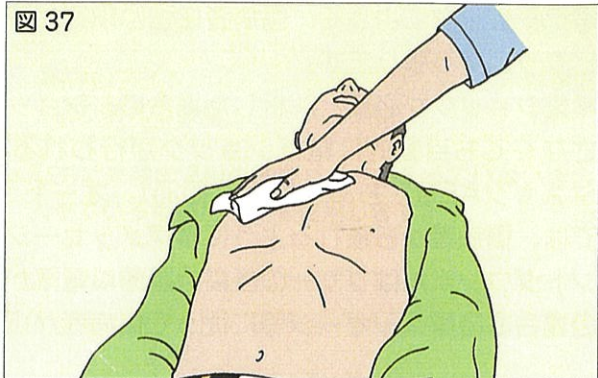
心肺蘇生をいったん中止し、慎重に傷病者を観察しながら救急隊を待ちます。この場合でも、AEDの電極パッドははがさず、電源も入れたままにしておきます。

参考 ▶ こんな場合のAEDの使用法

① 電極パッドを貼る際に注意が必要な場合

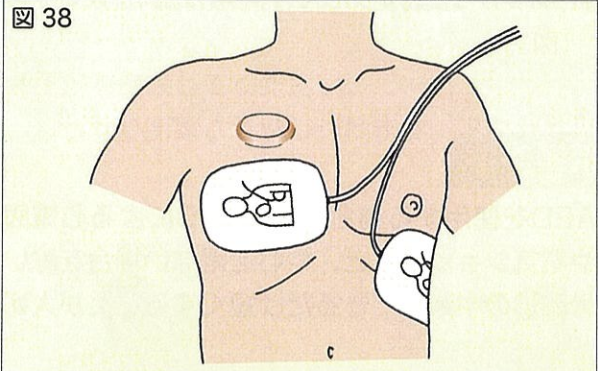
- 傷病者の胸が濡れているとき
パッドを貼る部位とその周囲の水分をタオルなどで拭き取ってから電極パッドを貼ります（図37）。背中や床は濡れていても問題ありません。
- 胸に貼り薬があり、電極パッドを貼る際に邪魔になるとき
胸に貼る薬で、電極パッドを貼る際に邪魔になるものとして、ニトログリセリン製剤や喘息薬ぜんそくなどがあります。これらの薬が貼られている場合は、それをはがして、肌に残った薬剤を拭き取ってから電極パッドを貼ります。
- 心臓ペースメーカーや除細動器が胸に植込まれているとき
胸の皮膚が盛り上がり、下に固いものが触れるのでわかります。電極パッドを貼る位置に心臓ペースメーカーや除細動器の出っ張りがあるときは、そこを避けて電極パッドを貼ります（図38）。
- 下着が邪魔をするとき
電極パッドを貼る位置に下着があった場合には、下着をずらして正しい位置に貼ります。その際、できる限り人目にさらさないよう配慮しましょう（図39）。

図 37



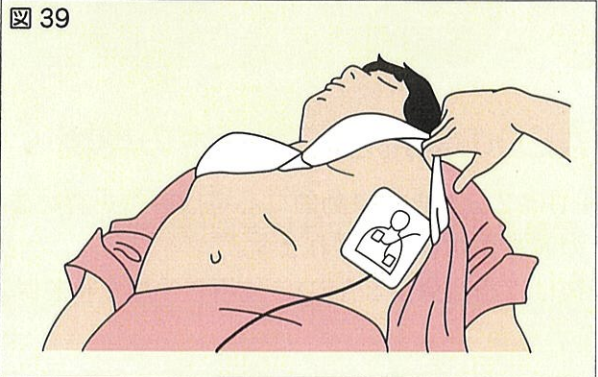
胸が濡れている場合

図 38



心臓ペースメーカーなどが植込まれている場合

図 39



下着が邪魔をしている場合

② 電気ショックの適応がない場合

心電図の解析の後に“ショックは不要です。直ちに胸骨圧迫を開始してください”などの音声メッセージが流れたら、電気ショックが必要のない状態です。この場合には、メッセージに従って直ちに胸骨圧迫から心肺蘇生を再開します。

AEDは2分おきに自動的に心電図解析を行いますので、AEDの音声メッセージに従ってください。